

011-27

インスリン自己注射導入パスに関する現状と今後の課題

前橋赤十字病院 看護部 8号病棟

○高橋^{たかはし} 恵、関^{めぐみ} 栄江、諸岡 ゆかり、井田 加奈子、
長 麻衣子、田中 陽智、大館 由美子

【はじめに】当院では入院病棟に関係なくインスリン自己注射を導入する患者が手技と管理方法の正しい知識を得ることを目的にインスリン自己注射導入パス(以下パス)を作成、平成24年7月より院内全部門で導入となった。

【目的】パスに関する現状から課題を明らかにする。

【方法】平成25年4月から12月までにパス導入、終了した42件を対象とし記述統計にて現状を概観、今後の課題を考察する。

【結果】パス対象者は男性25名(59.5%)、女性17名(40.4%)、平均59.9歳(SD ± 15.3)。部署では糖尿病専門病棟30名(71.4%)、非専門病棟5名(11.9%)、外来7名(16.6%)。科別では糖尿病内分泌内科37名(88.0%)、他科5名(12.0%)。パス対象者の手技獲得状況では1回目指導より自己注射できていた7名を含め5回目指導までに42名が手技獲得できた。しかしパス導入時から5回目指導までの全過程で指導チェックリストの全てに記入されていたのは42件7名であった。アウトカム達成状況では1回目32名(81.0%)、2回目28名(66.7%)、3回目21名(53.8%)、4回目19名(50.0%)、5回目17名(44.7%)であった。最終アウトカムでは、手技獲得、知識獲得、治療継続はそれぞれ18名(47.4%)、低血糖時対応16名(42.1%)であった。正のバイアスはなく負のバイアスは家族、スタッフ要因がそれぞれ1件あった。パスチェックしていない等の未記入でアウトカム達成判断不能が8件あった。パス対象者のHbA1Cの平均値の推移では、導入前10.1%(SD ± 2.5)、5回目指導時8.7%(SD ± 2.7)、パス終了3ヶ月後7.0%(SD ± 1.2)、6ヶ月後6.7%(SD ± 1.0)であった。

【考察】パスは幅広い年代を対象とし、看護師の指導が実施され半数以上のアウトカム達成となり、その後も良好な血糖値が維持できていた。課題は他科、非専門病棟での導入が少なく更にパス未記入があったため今後はパスの存在とその方法について周知を行う。